
目蓋

押尾 京

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

目蓋

【Nコード】

N6613H

【作者名】

押尾 京

【あらすじ】

主人公の視点しか存在せず台詞もありません。そして暗いです。

(前書き)

初投稿なので本当に暇な方だけ見てください。かなりつまらないです…

俺は暗闇にいる
多分ずっと前から此処にいる
不思議なことにこの暗闇の中には欲求が無いらしい
腹も空かない、眠くもならない勿論排泄なんて行為もない
別に悟りを拓いたわけでもない
いつからこの中にいるのか解らない
俺が誰なのかも
存在意義も

だがそれなりの知識はある
世界大戦は二次で終わった事やイエス復活した事、ジョン・レノン
が銃殺された事
それ等を知っているのに知った経緯は全くわからない

もしかしたら俺は学生で休みの前日に夜更かししすぎて変な事を考
えているだけなのかもと思う
だが違う、俺は何年も突っ立ってるはずだ
時間という概念が無いからかそう自分に言い聞かせる

考える事だけが俺に許された幸、不幸なのだ

だが数秒後、数時間後、数年後
数億年後かもしれない
一人の女が現れた

その女は目が見えないと俺に言った
俺はこの暗闇の世界を隠し晴れ渡った自然の中だと嘘をついた

俺は暗闇の世界の存在を知らなかった女に腹がたつたからだ
この時に俺に喜怒哀楽という感情が誕生した事に俺は気付いてい
なかった

その女は名前があり記憶があり更には睡眠をとることを許された存
在だった

俺は女に嘘をつき続けた

女は俺にとって怒りの対象、楽しみの対象になっていた

俺は女を苦しめようと肉体的に犯す事にした

初めて触れる女の肌は柔らかく心地の良いものだった

女の頬に自らの頬を当てた時に初めて気付いたのだが

俺の肌は滑らかで自分がまだ若い事を知った

そして女と交わる事が快感なのだと

俺は色んな事を知ってしまった

それは何かに逆らっているのだと思った

恐怖を覚えたがやめられなかった

俺は人になったのだ

手放せるハズが無い

手放せないものがあるのが人だから

少し前に戻れば思考能力や知識、もっと言えば命さえ手放せたのだ
が今は違う

どれ位の月日が経ったのだろう

女が恐ろしい事を言い始めた

実は俺は盲人で自殺失敗したのだと

名前、職業、経歴

恐怖を覚えたが俺は女の虚言だと自分に言い聞かせた
だが無くもない話だけに不安は取れなかった

出来れば何も知りたく無かった
俺と暗闇の世界が永遠に続くなんて真実じゃないとどこかではわか
っていた

だが恐くなり女を犯そうとして気が付いた
俺の身体はしわだらけな事に

ようやくわかった
女は姉だったことが

そして目の見えない姉が目の見えない俺に嘘をついていた事に
歳を取った御互いに妬みあう姉弟だったことに

(後書き)

見てくださった方がいましたら本当にありがとうございます。
時間を無駄遣いさせてすみませんでした…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6613h/>

目蓋

2011年1月19日15時47分発行